

知的基盤整備の推進

国際的な取組みへの参画(つづき)

アジア・コンソーシアムの設立(2004年10月)

多国間協力の枠組みとしては世界初

中国、韓国を含むアジアの12カ国の政府機関が参加

(独)製品評価技術基盤機構(NITE)が初代の議長、事務局

意義・期待

アジアの微生物を各国が容易かつ有効に利用可能となり、**アジア各国**の持続可能な発展につながるとともに、**我が国のバイオテクノロジーの飛躍的発展**が期待される。

アジア・コンソーシアム

参加国

日本、中国、韓国、モンゴル、タイ、マレーシア、フィリピン、インドネシア、ラオス、カンボジア、ベトナム、ミャンマー
合計 12カ国

組織

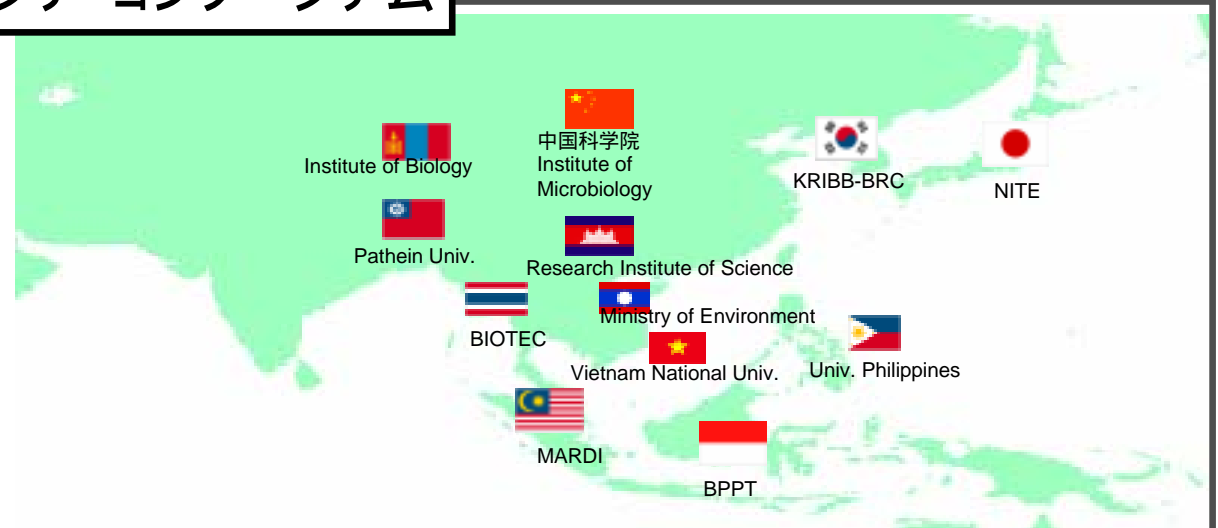
議長 : 磯野克己(NITE理事)
副議長 : タイ(次回開催国)、中国(次々回開催国)
事務局 : NITE

タスクフォース

- ・アジアBRCネットワークタスクフォース
議長: 鈴木健一郎(NITE)
- ・人材育成タスクフォース
議長: Indrawati Gandjar (インドネシア大学)

経緯・展望

第1回: 2004年10月 つくば市
第2回: 2005年11月 タイ、バンコクを予定
第3回: 2006年 中国を予定



《活動の目的》

微生物遺伝資源の研究・産業化等のための相互利用促進
及び技術力向上

《具体的活動》

- ・人材育成、技術指導
- ・生物遺伝資源機関間の強力なネットワークの構築
- ・セミナー、ワークショップ等の開催による情報交換
- ・広報